

## 2018年度 第2回 理事会 議事録

日時：2018年7月7日（土）14：00～16：30

場所：日本臨床検査医学会事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事  
宮地勇人、木村 聡、古田 耕、吉田 博、大西宏明、柴田綾子、長沢光章、東田修二、田中靖人 各理事  
福武勝幸 監事（15名）

欠席：谷直人、松尾収二、下 正宗、藤井 聡、萱場広之、小柴賢洋、通山 薫、松永 彰 各理事、  
高木 康 監事（9名）

### I 開会（矢富 裕 理事長）

会に先立ち、次の物故者を偲び黙祷が捧げられた。

2018年6月25日 名誉会員 臼井敏明先生（享年88歳）（長崎大 元教授）

その後、矢富裕理事長から挨拶があり、理事会の議事を進めた。

### II 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告があった。

#### 2. 各種委員会報告

##### 1) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

2018年6月27日に事務局にて委員会を開催した。そこで協議した以下について報告された。

- ・臨床検査専門医・管理医審議会より臨床検査専門医試験のMCQ問題と解答、解説の「臨床病理」への掲載依頼があり、9月号から領域ごとに順に掲載すること。
- ・国立国会図書館のオンライン資料へ臨床病理を収載するにあたり、国会図書館内での限定利用であるため、問題なしとした。
- ・電子版臨床病理英文誌の検討を行い、発行は年4回とし、タイトル、投稿受付、査読システム、公開方法等について引く続き検討する。
- ・臨床病理のタイトルを「日本臨床検査医学会雑誌」へ変更することについて検討した。
- ・PubMedの登録方法が2017年7月から変更となったため、それに伴う対応をする。
- ・論文末尾にCOI状態を明記すること、単位の表記法についての投稿規定を改定した。
- ・委員長が出席した5月8日開催の第4回研究倫理教育研修会における編集委員会に関連する事項を報告した。
- ・トピックスの進捗状況の確認と企画の立案を行い、投稿原稿の検討を行った。

##### 2) 学術推進化委員会（吉田 博 担当理事）

平成30年度学術推進プロジェクト研究採択3課題が報告された。これは、すでに持ち回り理事会で承認されており、臨床病理66巻6号、ホームページに掲載している。

ただ、応募が、研究課題（1）病態解析領域における独創的あるいは先進的検査技術の開発と（3）日常検査技術の開発・改善、あるいは問題点の解決に向けての取り組み（臨床検査技師からの申請を奨励する）に偏り、（2）予防医学関連領域における独創的あるいは先進的検査技術の開発、がなかったため、今後は、この研究課題への募集方を委員会で検討する。

H26・27学術推進プロジェクト研究のうち2件の最終報告の論文発表が期限内にできず、計画通りの成果が得られない結果となった。そのため、「臨床病理」誌への総説投稿で最終報告とする措置を取った。

このように研究は、予定通り進まないことも考えられる、そこで、現行の規定から、「原則として、研究期間終了後6か月以内に「臨床病理」誌に原著または総説を投稿すること。」という改訂案が提案された。これに対して、当会から2年間に100-200万円の助成金を支給しているので、規定に沿った研究成果は必須である。「必ず、研究期間終了後6か月以内に「臨床病理」誌に原著を投稿する。他誌に投稿した場合は、臨床病理に総説を投稿すること。」とすべきとの意見があった。この意見を参考に、再度、学術推進化委員会で協議することとなった。

##### 3) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事、古川泰司 委員長）

6月26日に、内保連より、平成32年度診療報酬改定診療報酬改定提案書提出までのスケジュールが示され、2018年12月上旬に内保連へ一次提案書を提出することとなる。このため、提案書策定のため、アンケートを計画していることが報告された。

内保連で、内保連医療技術負荷度調査委員会が発足し、DPC分類に基づいて外保連試案の内保連バージョンを作成するが、今後の診療報酬決定への影響が大きいと見られるため、本年秋までの対応が求められた。本件については、臨床検査点数委員会に対応することが承認された。

#### 4) 標準化委員会 (古田 耕 担当理事)

2018・2019年度委員会委員を選定し理事会に推薦したこと、5月21日に甲状腺項目標準化意見交換会を開催したこと、厚労省からも了承されたため、日本人基準値の設定のためのサンプルとして、獨協医大の倫理委員会を通じて、職員中心にサンプルを集める予定であること、ただし、GDPRではbalance of powerという概念を指摘しており真剣に対応していく必要があると考えていること、標準化の継続調査に関しては、JCCLSでプールサンプルを作成したので同時に測定し値付けすること、各企業の標準化への対応は、終濃度に換算式を当てはめる企業とキャリアプレーター値を変更して対応する企業があるため、臨薬協でアンケート調査し厚労省と協議することが報告された。

日本人基準値の設定のためのサンプル収集について、1施設限定の収集は問題があるため、地域のバランスを取り、当会倫理委員会とも共有して実施すべきとなり、再検討することとなった。

#### 5) EBLM委員会 (大西宏明 担当理事)

2018・2019年度委員会委員の選定を行い理事会に推薦したこと、第1回Web会議を5月30日17-18時と6月6日12-13時の2回にグループを分けて実施し、今後の委員会の方向性や、次回の学術集会における教育セミナーの内容について検討したこと、第65回学術集会、11月16日(金)9-11時に、京王プラザホテルで、「医療ビッグデータの解析法」という委員会シンポジウムを開催することが報告された。

#### 6) 利益相反委員会 (通山 薫 委員長)

2018・2019年度委員会委員を選定し、理事会に推薦することが報告された。

#### 7) 臨床検査室医療評価委員会 (長沢光章 担当理事、村上正巳 委員長)

委員会でアンケートを実施したうえで、「医療法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係省令の整備に関する省令案」に関する日本臨床検査医学会としての意見を、1. 医療機関における検体検査の精度を確保するための基準、2. 検体検査の精度の確保に係る責任者の設置、3. 外部精度管理調査の受検、4. 遺伝子関連・染色体検査の精度の確保という観点からまとめたことが報告された。

#### 8) 医療安全委員会 (吉田 博 担当理事)

医療安全関連会議(医療事故調査制度協力学会、日本医療安全医療機構、医療安全共同行動)へ担当理事、委員長が出席したこと、第65回学術集会(11月18日)での医療安全講習会は、①病理検査室のISO取得の意義と課題、②医療メディスンについて、という講演を企画していることが報告された。

#### 9) チーム医療委員会 (柴田綾子 担当理事)

第65回学術集会、11月18日(日)13-15時に、シンポジウム「在宅臨床検査の世界」を企画していることが報告された。

#### 3. 第65回学術集会報告(東京2018/11/15(木)~11/18(日)、村田 満 会長)(東條尚子 庶務理事)

2018年11月15日(木)~11月18日(日)に、京王プラザホテル(東京)において、村田満学術集会長(慶應大)のもと「新しい医療を支える検査の力」をテーマに開催予定であり、決定している特別講演、招聘講演、特別企画、教育講演、共催シンポジウム、委員会企画、セミナーが報告された。

#### 4. 第66回学術集会報告(岡山2019/11/21(木)~11/24(日)、通山 薫 会長)(東條尚子 庶務理事、通山 薫 会長 欠席のため)

2019年11月21日(木)~11月24日(日)に、岡山コンベンションセンター(岡山)において、通山薫会長(川崎医大)のもと開催予定であり、学術集会企画委員会での今後3年間におけるテーマの分担やシリーズ

企画の進め方等について協議中であることが報告された。

**5. 2018年度実施第35回臨床検査専門医認定試験について(東京 2018/8/4(土)~5(日)) (古川泰司 専門医試験実行委員長)**

第35回専門医認定試験は、8月4-5日(土日)に、帝京大学板橋キャンパスで実施予定であり、初回受験者19名、再試験受験者1名、再受験者3名、合計23名であることが報告された。

**6. 2018年度実施第10回臨床検査管理医講習・認定試験について(東京 2018/8/5(日)) (東田修二 管理医試験実行委員長)**

第10回臨床検査管理医講習・認定試験 認定試験実施要領、当日のプログラムが示され、専門医試験と同時、同会場で8月5日(日)に、帝京大学板橋キャンパスにおいて実施予定であり、39名が受験することが報告された。

**7. 関連団体等への派遣委員等について(更新) (矢富 裕 理事長)**

前回、理事会3月24日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

- 1) 厚生労働省 難病領域の特殊検査(遺伝学的検査を含む)の内部精度管理・外部精度管理への対応方法の窓口(2018/6/23 推薦): 宮地勇人先生
- 2) 日本医学会 評議員: 山田俊幸先生、連絡委員: 古川泰司先生(任期: 2018/4/13~2019/6 臨時評議員会まで)
- 3) 日本医学会連合 診療ガイドライン統括委員長会議委員: 吉田 博先生(任期: 2018/4/13~2019/6 臨時評議員会まで)
- 4) 日本医師会 疑義解釈委員会委員: 宮澤幸久先生、矢富 裕先生(任期: 2018/7/1~2019/6/30)
- 5) 日本臨床検査標準協議会
  - ・理事: 村上正巳先生、古川泰司先生(任期: 2018/4-2020/3)
  - ・ISO/TC212 国内検討委員会(推薦予定)
    - 団体委員: 矢富 先生
    - 委員長: 宮地勇人先生
    - WG1 担当委員: 宮地勇人先生、古田 耕先生
    - WG1 担当委員: 久保野勝男先生、三浦ひとみ先生
    - WG2 担当委員: 前川真人先生、久保野勝男先生
    - WG3 担当委員: 村上正巳先生、小野佳一先生
    - WG4 担当委員: 宮地勇人先生、古田 耕先生
    - WG4 担当委員: 堀井俊伸先生
    - WG5 担当委員: 福地邦彦先生
- 6) 臨床検査振興協議会
  - ・医療報酬委員会(2018/6/6に推薦)
    - 診療報酬改定小委員会 委員: 米山彰子先生、古川泰司先生
    - 診療報酬制度小委員会 委員: 村上正巳先生
  - ・ゲノム検査に関する小委員会(2018/6/5に推薦)
    - 委員: 松下一之先生、横田浩充先生
- 7) 日本専門医機構 社員、基本領域連携委員会 委員: 山田俊幸先生(2018/4/13~)
- 8) 日本医療安全調査機構 診療行為に関連した死亡の調査分析事業(2018/6/1~2019/5/31)
  - ・統括責任者: 中谷 中先生
  - ・事務局担当者: 田辺正樹先生
  - ・推薦担当者窓口
    - 北海道: 藤井 聡先生、東北: 森兼啓太先生、関東: 南木 融先生、東海北陸: 山田鉄也先生、近畿: 田中裕滋先生、中国四国: 北中 明先生、九州: 内海 健先生

**8. 日本医学会第4回研究倫理教育研修会報告(矢富 裕 理事長)**

5月8日、日本医師会館で、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会が合同で主催する第4回研究倫理教育研修会が「医学研究発表の質と信頼性の確立」というテーマで開催されたことが報告された。なお、本会議には、当会から、福地邦彦編集委員会委員長、横崎典哉倫理委員会委員長、

佐藤尚武利益相反委員会委員長が出席した。なお、横崎先生の報告書が紹介された。

#### 9. JACLaS EXPO 2018 後援依頼について (矢富 裕 理事長)

4月17日付文書で、JACLaS (日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会：残松直樹理事長) より、2018年10月11-13日、神戸国際会議場で開催予定のJACLaS EXPO2018 への後援依頼 (後援団体、バナー広告の当会ホームページへの掲載、当会臨床病理誌への綴込広告掲載) があり、4月18日付で承諾と回答したことが報告された。

#### 10. 平成30年度 日臨技 全国「検査と健康展」の実施並びに後援依頼について (矢富 裕 理事長)

5月21日付文書にて、日臨技から、11月の「臨床検査と健康の普及・啓発月間」に合わせ、全国「検査と健康展」実施にあたり、後援依頼 (後援名義使用) があり、5月25日付で賛同すると回答したことが報告された。

#### 11. その他

##### 1) 日本臨床検査同学院からの報告 (宮地勇人 同学院担当理事)

日本臨床検査同学院の事業は、当会との共催で重要であるため、本年度から担当理事を設けた。担当理事の宮地勇人理事から、同学院の2017年9月からの事業報告、試験関係、緒方富雄賞、記念講演会、部会活動、発行物、関連団体会合、2018年度事業計画等について報告された。公益法人のため、内閣府の立ち入り検査、法人面談があり、特定費用準備金積立の根拠を具体的に示す必要があると指摘があり、2018年12月の期限までに提出予定であることが報告された。

##### 2) ISBER ベストプラクティス日本語版の公開について (矢富 裕 理事長、古田 耕 理事)

ISBER (バイオバンクの学会) が、検体の取り扱いを中心としたベストプラクティス日本語版を無料公開していることが紹介され、臨床検査分野にとり大変有用であるため、会員にメールで周知することとなった。

### III 審議事項

#### 1. 2018・2019年度各種委員会 委員長・委員について (矢富 裕 理事長)

2018・2019年度各種委員会委員長については、3月24日の第1回理事会後に担当理事から前委員長に確認のうえ、推薦を受け、その後、担当理事と相談のうえ委員長から委員の推薦があった。なお、委員長、委員の任期が4年以上となる場合には、その理由も付記していただき、理事長がすべて確認的確認と認めたことが報告され、提示された委員長および委員等は承認された。

#### 2. 学会認定更新制度規定の一部改定について (山田俊幸 副理事長)

##### 1) 「リスクマネジメントに関する講習会」について

日本臨床検査医学会医療安全委員会が主催するリスクマネジメントに関する講習会と日本専門医機構共通講習 (医療安全) は、同様の内容の講習であるため、日本専門医機構 共通講習 (医療安全) 2単位の取得で、学会専門医更新の必須単位 (5単位) と認定する提案があり、承認された。

##### 2) 「その他の関連学会および日本医師会生涯教育研修会」について

現在「日本医師会生涯教育研修会」は存在しないため、これを削除し、「その他の関連学会が主催する講演会、教育セミナー」と改定することが提案され、承認された。

#### 3. 専門医制度関連事項について

##### 1) 2018年スタートプログラム制・カリキュラム制専攻医について (山田俊幸 副理事長)

2018年度に日本専門医機構臨床検査領域研修プログラム制の専攻医は4名 (東京慈恵会医科大2名、東海大1名、富山大1名) であり日本専門医機構にて承認され4月より研修を開始した。一方、カリキュラム制の専攻医は17名 (群馬大2名、千葉大2名、日大1名、東大1名、信州大学1名、東海大4名、岐阜大1名、神戸大2名、兵庫医大1名分、愛媛大1名、九州大1名) であり、当会新専門医制度研修プログラム認定委員会にて審査のうえ承認し、4月より研修を開始したことが報告され、追認された。

##### 2) 2019年専攻医募集における研修基幹施設 (新規) について (山田俊幸 副理事長)

2018年度日本専門医機構臨床検査領域研修プログラムは73プログラムであったが、2019年度はそれに3プログ

ラム（東北大、関西医大、徳島大）を加えた 76 プログラムとなった。

プログラムの無い県は、山形、茨城、新潟、滋賀、和歌山、鳥取、香川、沖縄となった。

新規、変更のあったプログラムとも 6 月に日本専門医機構に提出済みであり、8 月まで日本専門医機構での調整があり、その後プログラムが承認され、9 月から専攻医募集開始の予定である。

### 3) 今後のあり方等に関して（矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長）

日本臨床検査医学会（臨床検査領域）は、日本専門医機構の基本領域の一つとして認定されており、2018 年度研修プログラム専攻医が 4 名と他領域に比して人数が少ないが、カリキュラム制専攻医を合計すると例年通りの受験者数と同程度となる。将来的に基本領域の議論があった場合の対応策として、臨床検査専門医の重要性を伝える文書（案）が提示され数件の意見があり、理事長が修正を行い、再度、メールで確認することとなった。

### 4. 2019 年の定時社員総会について（矢富 裕 理事長）

2018 年度に係わる定時社員総会は、2019 年 3 月 23 日（土）、学士会館において開催予定であることが確認された。昨年（2017 年）の定時社員総会同日に、講演会ならびに希望があった委員会の報告を行ったが、2019 年に開催する定時社員総会でも同様の開催とするかどうか検討し、同様に開催することが承認された。

### 5. 「大学医学部における臨床検査医学講座の重要性」について（矢富 裕 理事長）

臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって日本臨床検査医学会の考え方が、当会の現状と乖離してきたため、臨床検査医学の重要性を主題とした文書が提示され協議された。数件の意見があり、理事長が修正を行い、再度、メールで確認することとなった。

### 6. 日本医学会遺伝学用語改訂に関するアンケート回答について（矢富 裕 理事長、東條尚子 日本医学会用語委員）

日本医学会から遺伝学用語改訂に関するアンケートについて審議し、アンケートにある「顕性」、「潜性」を新たな訳語とすることをおおむね承諾する方向性となったが、重要な案件であるため、全理事に資料をメールで送付し、理事からの意見等を確認したうえで常任理事が回答案を作成し、理事に最終確認のうえ回答することで承認された。

### 7. 評議員名簿等のホームページ掲載について（矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務担当理事）

諏訪部章東北支部長から、2019 年度評議員名簿がすぐに閲覧できるようホームページへの掲載の提案があった。本件について、本会を除く 17 基本領域学会の状況を調査した一覧が提示され、16 学会がホームページに掲載されている説明があり、当会も評議員名簿を掲載することが承認された。

### 8. その他

#### 1) 第 68 回学術集会長（2021 年）の選出について（矢富 裕 理事長）

第 68 回学術集會会長の選出にあたっては、学術集會企画委員会からの提言により、関東・甲信越支部と東海・北陸支部 2 支部からの推薦依頼がされているが、各支部からの候補者には、9 月 30 日までに A4 用紙 1 枚程度の抱負の提出が求められ、それを基に 10 月 27 日の第 4 回理事会で決定することが報告された。

#### 2) 2018 年度理事会日程について（東條尚子 庶務理事）

次回以降の理事会は、第 3 回：9 月 1 日（土）、第 4 回：10 月 27 日（土）、第 5 回：12 月 22 日（土）の 13：30～16：30 に開催予定であることが報告された。

#### 3) 2019 年度日程について（東條尚子 庶務理事）

2018 年度に係わる定時社員総会および理事会は、2019 年 3 月 23 日（土）に、学士会館で開催予定であることが報告された。

#### ・理事会の開催日について（矢富 裕理事長）

これまで、理事会は、主に土曜日に開催してきたが、土曜日に行事が入り欠席となる理事、監事が多いことなどを考慮し、また、本来、平日に開催すべきものであると考えられることから、事前に、理事、監事の都合を伺ったうえで、平日、午後からの開催の方向性が提案され承認された。

#### IV 閉会

閉会の言葉があり、本理事会は閉会された。

以上

2018年7月7日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理事長

矢 富 裕



副理事長

山 田 俊 幸



監 事

福 武 勝 幸

